

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：33941

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K15974

研究課題名（和文）精神看護学における失敗から学ぶ教育方法の開発

研究課題名（英文）Developing an Educational Methodology based on Learning from Failure in Psychiatric and Mental health Nursing

研究代表者

村瀬 智子（MURASE, TOMOKO）

日本赤十字豊田看護大学・看護学部・教授

研究者番号：80210037

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：初年度は、学際的観点から文献検討を行い、「学びと遊びの原点に迫る 自己・非自己循環理論の視点から - 」と「失敗から学ぶ教育方法の開発」について発表を行った。次年度からは、看護学生、看護師、教員の三者に対して半構成的面接法を用いてデータ収集を行った。最終年度は、データを質的分析により統合し、精神看護学における学習上の失敗体験が成功体験へと変容する教育方法のモデルを構築し、その成果を共同研究者と共にまとめ、『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』（言叢社、2020）を発刊した。また、初年度から年1回のペースで「こころの病とこころの癒し」に関する学際的シンポジウムを全3回開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神看護で用いられる癒しの技は、個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい目に見えない技である。そのため看護学生は、これらの癒しの技について表面的理解に留まりやすく、精神障害をもつ人への看護援助の意味を十分理解することが難しい。そのため、学生は看護援助の意味を十分に理解できないまま、実習体験を失敗体験として捉えがちである。

このような教育現状の中で、本研究で構築された失敗から学ぶ精神看護学の教育方法のモデルは、失敗させない教育から失敗から学ぶ教育へのパラダイム転換の可能性を広げる意味で学術的・社会的な意義がある。現在の正解を求めるような教育上の課題の解決を可能にすると考えられる。

研究成果の概要（英文）：In the first year, we published the paper on “Towards the Origins of Learning and Playing; From the Perspective of the Self-nonsel self Circulation Theory” and gave the presentation on “Developing an Educational Methodology based on Learning from Failure”. In the second year, we collected data on experiences of transition from failure to success with semi-structured interview for nurse students, expert nurses and teachers. After qualitative analysis, we constructed the educational methodology based on learning from failure in psychiatric and mental health nursing. In the Last year, we published the book on “Co-creation for Advanced Future Philosophy” (in Japanese, Genso-sha, 2020).

研究分野：精神看護学

キーワード：精神看護学 失敗学 教育方法 自己・非自己循環 メタ認知的学習

1. 研究開始当初の背景

(1). 精神看護学教育における失敗学的視点の導入

古来より、人が成長するには失敗体験が必要不可欠であり、失敗は成功の始まりとも言われてきた。一方、これまでの看護教育においては、失敗させない教育に主眼が置かれてきた。本研究では、看護教員の評価内容に加えて、看護系大学生及び臨床実習指導者の視点という三者の評価内容をメタ統合することとした。そのために精神看護学担当教員、精神看護学の履修が終了した看護学生、臨床実習指導者を研究参加者として半構成的面接を行い、学習上の失敗体験内容に関する各自の主観的な捉え方と評価内容を質的帰納的に分析した。この方法により看護教員、看護学生、臨床実習指導者のメタ認知的評価を加えた新たな精神看護学教育の本質を記述した。

(2) 認識論等、異分野の知見を基盤とした精神看護学教育方法の開発

精神看護で用いられる“癒しの技”は、個人の経験知に埋もれ、言語化されにくい目に見えない“技”である。そのため、看護学生は、精神看護学の講義・演習・実習の一連の教授 学習過程において看護実践や技術について表面的理解に留まり、精神障害を持つ人への看護援助の意味を十分理解することが難しい。このような教育上の課題を解決するためには、認識論等の異分野の知見を基盤として、意識・無意識と言動との関係を臨床における学習経験をもとに理解する視点が欠かせない。

看護系大学・大学院では、「知識は何か」については学ぶが、「どのようにして知識を獲得するのか」、そして「いかにして既知の知識から新たな知識を創り出すのか」について学ぶ機会が少ない。その背景には、認識論等の異分野の知見を基盤とした看護学基礎教育に関する教科書が不足していることが考えられる。そこで、本研究では、精神看護学教育方法に関する教科書を執筆・出版することとした。

2. 研究の目的

激変する社会において、人類は新しい状況に対処する際、既存の知識から新たな知識を再構成するとともに、失敗体験から多くを学び、成功体験へと変容させてきた。この観点を踏まえ、本研究では、客観的評価が難しい精神看護学教育において、学習上の失敗体験をメタ認知的学習過程という観点から捉え直す新たな教育方法として、失敗から学ぶ教育方法の開発を目的とした。

具体的には、以下の手順で先行研究の検討・データ収集・方法の開発と教科書出版を実施した。

- 1) 看護学教育、科学教育、認知科学、構造主義、哲学など学際的観点からの文献検討
- 2) 看護教員・看護学生・臨床実習指導者への面接から捉えた学生の学習上の失敗体験の評価
- 3) データ分析による精神看護学教育方法のモデル構築と教科書の出版

3. 研究の方法

本研究は、以下の3段階で行った。

第1段階：学際的観点に立ち、看護学及び看護学以外の諸分野の文献・書籍の検討と情報収集のための国内学会参加。

第2段階：看護教員・看護学生・臨床実習指導者の各5名程度を研究協力者として、半構成的インタビューを実施。精神看護学学習における失敗体験の捉え方・評価について質的に分析

第3段階：半構成的インタビュー内容の分析・考察と精神看護学教育方法の開発と教科書の執筆・出版

4. 研究成果

(1) これまでの看護学教育においては、失敗させない教育に主眼が置かれていた。しかし、失敗にも階層があり、仮想演習や実習における小さな失敗体験に看護学学習上の意味が存在するという観点から丁寧に省察することで、失敗体験を成功体験へと変容させる可能性が広がり、学習を深化させることが期待できる。特に、精神障害をもつ人への看護援助では、言語など外面的に現れている「意識」のみならず、行動を手掛かりにして「無意識」へも関わる。しかし、その関わりの“技”は看護者の経験知に留まっており、言語化されにくい。そのため、看護学生は講義・演習のみならず臨床実習においても看護実践に関する学習経験の評価が表面的理解に留まることが多い。そこで、本研究では、メタ認知的学習過程の観点を取り入れ、看護教員の評価に加えて、看護系大学生及び臨床実習指導者の視点という三者の評価を半構成的面接法により明らかにし、それらを統合することで、学習経験を深化させることができる教育方法を開発した。

(2) 平成28年度は、研究課題に関する文献検討を行い、平成29年度は、失敗から学ぶ教育方法について検討するためと地域社会に研究成果を還元するために、学識者を招いて学際的なシンポジウム「こころの病とこころの癒し～こころの病をきっかけに発見する新しい自分～」を開催した。

(3) 平成29年度は、文献検討結果から研究方法を確定した。研究参加者に対する研究内容に関する説明文書及び依頼文書等を作成し、データ収集に向けて研究倫理審査を受けた。その後、研究参加者である看護系学生7名及び実習指導者8名に対してデータ収集を行った。また、平成28年度に引き続き、第2回目の学際的なシンポジウムを「こころの病とこころの癒し～健康と病と芸術～」のテーマで開催した。

(4) 平成31年（令和元年）度及び令和2年度に、教員4名に関するインタビューデータの収集を終え、すべての分析結果を質的分析により統合し、研究成果を発表すると共に、講義に使用できる著書として共同研究者と共に、『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』（言叢社、2020）を発刊した。また、令和元年度には、第3回目の学際的なシンポジウムを「こころの病とこころの癒し～癒しのはじまりとしての病～」のテーマで開催した。

<引用文献>

村瀬智子・村瀬雅俊：熟練看護師のライフヒストリーにおける学習意欲を保持する過程 自己・非自己循環理論の視点から , *J. Quality Education*, vol.5,53-69,2013

村瀬智子・村瀬雅俊：教育過程におけるメタ認知的学習の意義 教育過程と病気の回復過程の同型性 , *J. Quality Education*, vol.6,51-68,2014

看護教育過程の基盤となる構成的認識論の構築と構造主義再考を発表

村瀬雅俊。村瀬智子：構成的認識論 自己・非自己循環理論の展開 , *J. Quality Education*, vol.5,29-51,2013

村瀬雅俊・村瀬智子：構造主義再考 自己・非自己循環理論の視点から , *J. Quality Education*, vol.6,27-49,2014

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 村瀬雅俊・村瀬偉紀・村瀬智子	4. 巻 9
2. 論文標題 創造性リテラシー - 自己・非自己循環理論の展開 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Quality Education	6. 最初と最後の頁 53-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村瀬雅俊, 村瀬偉起, 村瀬智子	4. 巻 8
2. 論文標題 学びと遊びの原点に迫る - 自己・非自己循環の視点から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J. of Quality Education,	6. 最初と最後の頁 23-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件/うち国際学会 7件）

1. 発表者名 村瀬智子
2. 発表標題 看護学における学びと創造性
3. 学会等名 国際教育学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tomoko Murase
2. 発表標題 New Perspectives of Advanced Nursing Theory
3. 学会等名 Applied Physics and Mathematics & Materials Reserch and Technology（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村瀬智子
2. 発表標題 学びと癒し - コミュニケーションがとりにくい人の理解と支援
3. 学会等名 京都大学未来創成フォーラム「未来を拓く学びの力」 in Mie (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村瀬雅俊・村瀬智子
2. 発表標題 いのちの教育と創造性 - 未来創成学への招待
3. 学会等名 国際教育学会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tomoko Murase
2. 発表標題 Advanced future Nursing
3. 学会等名 Transdisciplinary & International Workshop on Advanced Future Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 村瀬智子・村瀬雅俊
2. 発表標題 失敗から学ぶ教育方法の開発
3. 学会等名 国際教育学会 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tomoko Murase & Masatoshi Murase
2. 発表標題 Origins and Evolutions of Care
3. 学会等名 Origins and Evolutions of Complexity in Mie (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村瀬偉紀・村瀬智子
2. 発表標題 教育活動におけるTAの意義
3. 学会等名 国際教育学会 (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 村瀬雅俊・村瀬智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 言叢社	5. 総ページ数 385
3. 書名 未来共創の哲学 - 大統一生命理論に挑む	

1. 著者名 山極寿一・村瀬雅俊・西平直	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 346
3. 書名 未来創成学の展望 逆説・非連続・普遍性に挑む -	

1. 著者名 村瀬雅俊・村瀬智子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 77
3. 書名 大統一生命理論への挑戦－自己・非自己循環理論の展開（未来創成学への展望における第1章分担）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	村瀬 雅俊 (MURASE MASATOSHI) (10182122)	京都大学・基礎物理学研究所・准教授 (14301)	